

競技会規約

1. 競技の部門

- 滞空時間競技は2部門とする。
小学生以下の部、一般の部(中学生以上)

2. 使用する紙は、折り紙ヒコーキ協会の認定競技用紙(A5サイズ)を原則とする。

3. 紙ヒコーキは、1枚の紙を折るだけで作ること。

- 禁止事項 —— 紙を切る、他の紙を貼り付ける、オモリ等を付ける、テープの使用、のり付け、ヤスリがけ
※注記：競技前に計測員が機体を確認します。また、計測後に違反が発見された場合は失格となります。
- 競技会に予め上記2. の用紙を使用して製作した紙ヒコーキを持込んで競技に参加しても良い。
ただし、その場合の記録は公式記録として認定されるが、競技会の記録としては以下の数値をマイナスした記録で集計する。

部 門	マイナス時間
小学生以下の部	3 秒
一般の部 (中学生以上)	3 秒

例) 一般の部(中学生以上)で滞空時間競技の記録が17.73秒の場合、公式記録としては17.73秒で認定されるが、競技会の記録としては17.73秒-3秒で14.73秒として集計される。

4. 競技方法と計測

- 紙ヒコーキを投げた瞬間(手から離れた時点)から床に着地までの飛行時間で競う。
- 紙ヒコーキは、手投げとし、ひとりの人(投げる人)が静止状態から人の助けを借りずに投げなければならない。
- 紙ヒコーキを投げる際に、助走や早歩きは認められない。
- 平地のメインフロアより高い場所から投げてはならない。
- 投げる間は、片足もしくは両足が地面から離れてはならない。
 - ・片足が5cmまで上がるのは1回のみOKとし、注意を宣告する。
2回目以降は記録は無効。
 - ・両足が上がるのはNGとし、記録は無効。
- 滞空時間の記録は、ストップウォッチを使用して測定し、小数点以下2ケタまでを記録とする。
(例：1回目 12.34秒、2回目 9.56秒)
- 紙ヒコーキが人に接触、衝突した場合は、その後に落下着地した時点までの時間とする。
また、競技者の申告により再トライができる。
計測員が1秒以上引っかかっていたと判断した時は再トライとする。
- 紙ヒコーキが人以外の壁や物等に接触、衝突した場合、その後に落下着地した時点までの時間とする。
計測員が1秒以上引っかかっていたと判断したとき、また高所に引っかかったときは再トライとする。

